婦人衛生雜誌

大正二年二月二十日發行

第二百七十九號

婦人衛生雜誌

第二百七十九號目次

私立大日本婦人衛生會總會通知

本會規則に據り來る三月一日（第一土曜日）を以て本會總會開催致候間左の各項御了承の上會員諸姉の御出席あらんことを乞ふ

御婦人に限り御同伴苦しからず

一、時日　三月一日午後一時より
一、會場　神田區和泉町東京衛生試驗所
一、役員改選
一、庶務會計報告
一、講演　結核豫防　醫學博士　岡田和一郎君
一、供覧　衛生試驗所參考品

尚當日は本會總裁宮妃殿下の御臨場をも仰ぐ筈に御座候得ば此段御含置可被下候

大正二年二月

私立大日本婦人衛生會

電車は美倉橋停留場にて御降車を便とす

講演

婦人の衛生思想

醫學博士　片山國嘉

女子が生長し嫁して一家の主婦となり良妻と呼ばれ賢母と稱せらるゝには夫々相當の教育を受け修養を積みて其の素養を作成することが肝要である。其の素養を作成するのに最も大切なるは學校の教育と家庭の教育と精神の修養との三つである、此事は今私が殊更に申すまでも無いことではあるが其の中に就いて吾人の平素特に遺憾に思はるゝ點のあるのが衛生思想の教育と修養との缺乏である。

婦人が日々朝より夕に至るまで、四六時中自ら行ひ又人に注意し差圖する所の仕事は大抵皆多少衛生上に多少關係のあるものである、衛生上無關係のものは殆どないのである。例へば先づ朝起ると歯を磨き口を嗽ぎ面を洗ひ手を洗ふ、其處で歯を掃除するにしても、只磨粉を付けて磨きさへすれば、それで歯の手入は濟んだやうに考へて居る人が多くて歯の衛生法を知らぬ所から、世間に歯の惡くなる人が澤山に出來るのである、これは畢竟歯の衛生に關する適當なる思想の缺乏する故である、若し世間の母親に此の衛生思想があるならば其子供にも亦よく衛生上の道理に適ふた躾があるに相違ない、左すれば其の結果としては其の子供に限つて歯の病む者が少くなる。其の結果としては食物の咀嚼が自づと克く出來るから、胃腸を病ふ者も亦少くなる、胃腸が健全なれば何を食しても皆よく之を消化吸收するが故に身體は倍々壯健精神は倍々爽快となるが故に何をしても仕事は活潑に克く出來るのである、これは母親に

齒牙に關する衞生思想のある爲めの好影響である。又洗面洗手冷水摩擦等を爲るに就ても、之に關する衞生思想が一家の主婦にあるのと無いのとで其の實行上の難易の上に非常に相違のあることである。冷水摩擦其物は何んでも無いことのやうであるが春夏秋冬休み無しに日々之を實行するのは容易の事のやうで實は中々の難行である、然し此の難行も主婦が注意して良人や子供に冷水摩擦の心地よく容易く出來るやうによく準備して仕向けて呉るれは如何なる極寒の時と雖も毎朝必ず之を實行することが出來て少しも困難を感ずることは無い、が若し之に何等の注意何等の準備なきに於ては風の吹く時又は極く寒い時等の冷水摩擦は中々の困難である、其際强いて之を勵行しやうとする時には其れが爲めに反つて感冒することもあるので終に餘儀なく之を中止するに至るのが先づ世間普通の例である、此の如き衞生と最も有益なる日々の行事も主婦に衞生思想の有ると無いとに依つて玆に其實行上難易の別を生じ隨つて其の人の健康上に大なる影響を見るに至るのである、婦人が此際爰に注意すると否とは何んでもない些事のやうであるが、それが決して些事に止らず之を適宜に行ふのは社會衞生上實に有益なる一大要項と見ねばならぬのであります。

其他飲食物のこと衣服夜具布團手拭ハンケチのこと屋内及び屋外掃除のこと、痰壺及便所淸潔法のこと、普通病人看護のこと、傳染病人取扱のこと等主婦の日々監督處理する事は悉く皆大に衞生上の注意を必要とすることのみである、其の注意の良く衞生上の道理に適ふ時は其れが小にしては一家幸福の基となり大にしては社會國家の衞生上に頗る著大の好影響を及ぼす程の大切の事斗りである。

又人類社會に大害を爲しつゝある飮酒の風俗習慣の如きも各家庭に於ける主婦の腦裡に汎く酒害の眞相に關する智識及之に對する衞生思想の幾分かゞ存して居て之を事實に現はすことの出來るならば、飮酒の風俗は此れが爲めに大に改善することの出來得る見

込は慥にあるにも拘はらず、現今の婦人の多數には未だ此の酒害に關する智識及衞生思想が著しく缺乏して居る所より良人や子供を眞實に此の有害なる飲酒の風俗習慣より遠けやうと努力しつゝある婦人の寔に少いのは、單に其の個人の直接に被むる酒害の爲に之を遺憾とする斗りでなく、此が爲めに吾が日本帝國の國民衞生又は民族衞生とに及ぼす惡影響の頗る著大なるを見て私は之を甚だ遺憾に思ふのであります、それ故私は機會さへあれば世間の婦人方に此の事を警告する次第であります。

以上は婦人に衞生思想のあるとないとに依つて生ずる其の直接及間接の利害の尠からざることを明示する爲めの二三の例である、一家の主婦の日々の行事には何事にも皆此の如く多少の相違こそあれ一として衞生上に關係の無いことはありませんから婦人に衞生思想を養成することの必要なるは申すまでもないことであります。

或る人の申すには現代の婦人には大に衞生思想の上に缺點ありとするも今現に小學校及各種の女學校等に於て又各家庭に於て新敎育を受つゝある女子には此等衞生上の新思想を授けつゝあるであらう、其の點に就いての遺憾は無い筈であると云はれますが私の見聞する所に依れは實際に於ては各學校共中々さうでないやうである、故に私は此の女子に衞生思想を養成すると云ふことに就いては女子敎育の當局者に於て學校家庭の別なく一般に今一層の注意努力を切に希望致します。

叢談

神經病者は結婚して可なるか

ドクトル　ハンス、フレーリツヒ述

遺傳の事實に基いて、神經病は、神經病者の結婚を

止めさすれば、此世より除き得るものと多數の人は信じて居る。併しこれは、精神病や、癲癇や、結核を減少せしめ撲滅せんが爲めの提議と同様、或はもそつとそれよりも實行され難いことである。若し斯様な法律を制定することが出來るものとした所で、偖て何人か其の神經狀態に判決を與ふるであらうか――兩親は神經が健全なるにも拘らず、神經病の小兒が生れ、又神經病のある兩親が健全な小兒を持つことも出來るのであるから、これ亦頗る不正當のことであらうと思はれる。

そこで醫師として相談に與ることになれば、寧ろ各個の場合に就て忠告を與へなければならぬ。先づ後天性の神經病、卽ち生れつきと云ふ譯ではなく、何等かの原因に依て起つた所の神經病であれば、結婚は、その病氣が恢復しかける迄は是非延ばすやうに勸めざるを得ない。結婚に由て、種々の思掛ざる影響を被むることがある、これは恐らく今迄あつた所の神經衰弱が、これが爲に增惡するものと思はれる。

但しその神經質は、明かに戀愛に因る所の精神興奮に基くものなる場合だけは除外例である。併しこの場合にあつても、少なくとも其他の身體的健康が確かであり、結婚が、その神經性衰弱を理性的の顧慮に立向はしむる見込ある場合たるべきである。

根源が深く且つ全體の素質に基く所の神經衰弱症、卽ちノイラステニーは、結婚に就ては、少なからず心配がある、患者自身の爲にも、配偶者の爲にも、またその子孫の爲にも心配がある。若し外部の狀況が、神經質の者に取りて、その結婚に於ても、少なくとも時々全く健康に生活することを許されるやうに、都合が好くない場合、又配偶者が、能くいたはり、讓歩し、且つ何時も變らず良好なる影響に依て其の困難を容易にするに適した人でなければ、その結婚は斷然勸止しなければならぬ。

兩人共全體に神經性の素質を有て居る者の間の結婚は、何時までも幸福であることは受合はれない、その結婚に由て重症の障碍を持つた小兒が此世に生れる

と云ふ危險が、その中に潜れて居る。神經性の素質ある者と結婚する所の健康者は、豫め結婚に依て生ずる所の義務と重荷との範圍の外に、尙ほ神經質の者と持續的につき合ふて行く者と云ふ、特別の困難を身に引受ける事を、眞面目に承知して置かねばならぬ、決して結婚或は愛情其の者が、既に神經質に打勝ち得るものと信ずる事は出來ないのである。兎に角配偶者雙方の、弱點と長所とを、公平に評價し得る所の、長年間、掛りつけの有力なる、醫師の判斷に任せて、相談する事が出來れば、最も上策である。次で結婚をしたならば、夫婦兩人は各個に、又共同に、衛生法の敎に從ふやうに勉めなければならぬ。但し餘計の恐怖を以て心を苦しめてはならぬ。然し障碍が起つたならば、明らかに是を認めて、これに對して適當なる療法を講じなければならぬ。この法則は、小兒にも該當むべきことで、この場合に於ては往々あまやかし、餘り大事にしすぎる事に由つて害を來すが、又餘りに強固にしやうと試みて、害を來すと云ふ事を考へなければならぬ。それで愼で中庸の道を執る事が必要である。

非醫者とは何ぞや

太古には特に醫師と云ふものはなかつた、人が病氣に罹つて苦む時には、其の傍に居る者が撫でるとか、さするとかして慰はつたに相違ない、而して其中の多少智慧あるものが、工夫を凝らして幾分か宜しい方法を講じ、段々經驗を積むに從つて種々の藥物や治療法を發明し、兎も角も一種の醫方醫術が出來て來て、それが一般に文化の進むにつれて進步發達して、今日の醫學の域に達したのである。それで昔は特別に醫者と云ふものはない、稍や時代が進んでは、何れの國に於ても、先づ悲慈を本とし、且つ智慧もあり學問もあつて、人より尊信さるゝ所の神官僧侶と云ふやうな宗敎家が醫術を行つた、卽ち僧にして醫、醫にして僧と云ふ譯であつた。其後漸く醫學が

宗教と分れて科學的の發達を遂げることになつたが、矢張昔の流儀が一方に殘つて居る。而して醫學が漸次進歩して、最早用ひなくなつた藥物、廢つた治療法は、何時しか民間の秘藥、秘法となつて、ある一部には進歩改良を經た所の、現に行はれて居る藥物や療法よりも不思議の效能があるやうに思はれて居る。又今日では、學校で何年か專門に醫學の教育を受け、試驗を經て開業免狀を得た所の醫師、これが今日我國の醫師と稱するものであるが、正統の醫學教育を受けず、開業免狀も所持せずして醫業を營む者がある。これを非醫者と云ふので、我國では幸に非醫者の開業を禁じてあるが、獨逸あたりでは、此の非醫者が盛に跋扈して居る。

我國に於ては、非醫者が醫術を行ふことを禁止してはあるが、矢張これが絶えない。これは何う云ふ譯かと云ふに、其の主なる原因は病人の迷信と醫學上の智識が缺けて居る事と、經濟上の問題と、この三つの弱點に付け込まれるのである。

例へば何處其處の神樣の御符を戴かせれば、如何なる重病も立所に平癒すると云ふて、紙片を病人に飲ませる位は、餘り甚しい害も無からうが、如何なる病苦も快癒すると云ふて、モルヒ子を入れた金平糖を授けたり、孑孒の涌いた御水などを戴かされては危險である。これは前に云ふた昔の宗教的醫術の痕跡であつて、今日に於ては全く迷信に付け込んでの惡業である。

次には普通の人々の生理、病理及び藥物學等の智識が無いのに付込けんで、少しも理窟に合はぬ奇怪な療法を施す、例へば如何なる病氣にも皮膚に紅などを塗つて全治せしめると稱する。それから從來の灸や針や揉療治を濫用する。秘傳藥と稱して何にもならぬ草根木皮を與へ、人助けなどゝ云ふて謝禮をせしめる。更に今日に至つては、電氣、X光線、ラヂウムなどを振舞はして萬病即治或は全治法を呼ばる、併し此等はそれ〲形のある目に見えるものを用ひて癒すと稱するのであるが、今度は精神的療法

と唱へて、催眠術や千里眼の類に依て萬病を一掃する如く呼號する。此外にも種々樣々の事をして病人を取扱ふ。此等が所謂非醫者のする事であつて、斯樣な事をするものが非醫者と云ふ輩である。

偖て世間の人々が何故斯樣な者共に騙さるゝかと云ふに、一には彼等の廣告又は辯佞に騙さるゝのである。彼等の技術と云ふのは此が第一であるが、これよりも人の惑はされ易き原因が一つある、と云ふのは、多くの病氣の中には、何等の治療を加へずとも自然に治する病氣がある、又無法の治療を施しても多くの病氣の中には偶然適中することがある、所謂鐵砲藥で、當ることもある。それで醫師が診斷して、治癒覺束ない、或は豫後不良と云ふたものが、盛に惑ひ迷ひに迷ふた末、非醫者の手にかゝつて偶然治癒することがある、さうすると其人は眞面目な學識ある醫師の一度誤つた事を以て、總て立派な醫學を修めた醫師は駄目であるとなし非醫者に受療中偶々一度治つたことがあると、之を以て此上もない神醫のやうに信じ、盛に吹聽する、わい〳〵連は輪に輪をかけ、おちやちやらは忽ち迷はされて仕舞ふのである。併しこれは篤と考へて見なければならぬ。第一常識より判斷して、系統的に立派な醫學の教育を受け、試驗を經て醫師たる資格を得、多年研究もし經驗も積んで居る醫師と、別に學識も無く、人の身體の解剖も生理も病理も何も知らず、假令一通り物好きに、或は素人騙しに醫學書の片端を覗いたやうなものでも、元より醫師たる資格はなく、偏に人を誑かして金錢を貪らうとのみ考へて居る山師者と、何方が善い醫師であるか、何方に自分の生命を託すべきであらうか、言ふまでもなき事であらうと思ふ。固より醫師と雖も、誤診をすることがある、療法を誤ることもないとは限らぬ、又病氣に依ては、如何に適當の治療を施すも救ふことの出來ないものもある。然らずんば世に死ぬる人は無い筈である。けれども醫師が誤診し或は療法を誤るのは、これは眞に過であつて、一體は正しく診斷がつき、正しく療

法を施し得るのが持前である。然るに非醫者は偶々病を治し得たならば、其れが過で、所謂まぐれ當りである。普通診斷のつかぬは勿論、治し得ぬのが持前である。然るに、そのまぐれ當りを信じて、之を一般に推し、偶然の誤を責めて全體に及ぼすは、柳の下に土鰌を求め、羹に口を燒いて鱠を吹くの類である。

尚ほ一つ非醫者の付近む所は、經濟上の點である、即ち普通の醫師よりも藥價、治療代等を廉くする、或は仁術などゝ云ふ立派な假面を被つて、餓鬼亡者の貪慾を逞ふするのである。例へば人助けの爲めに祕傳の治療法を傳授する、又は祕密の妙藥を頒つなどゝ云ふ類の廣告を出す。此の如き廣告に依て自分の生命を賭する人は實に哀むべき人である。

要するに、醫師ならざるものよりも、醫師の方が病を善く治するの道を知つて居る筈である、藥價治療代が安いからと云ふて、己の生命に拘ることを些細の金錢に依て左右すべきものでない、それ程安い生命ならば初から治療などを希望する價値がないのである、婦人は兎角人の口車に乗り易い、彼人は醫者では無いが、療治の方に於ては博士も遠く及ばぬ、現に私の如き醫師に見放された者さへも彼人の治療を受けてからは、紙を剝ぐやうに恢復したなどゝ云はるれば、忽ち信仰し始める傾がある、これは人間殊に病ある者の弱點であるが、沈著に熟考を要する所である。繰返して云ふが、醫師は非醫者よりも賴むに足るべき醫者である。非醫者の害毒の漸次甚しきを見て、敢て婦人の爲に之を言ふ。

貧血と補血藥

お母さま方が、よく子供衆やお孃樣方を醫師の許にお連れになつて、どうもこの子は貧血で御座いますと云ふて、ちやんと、診斷をつけてお出になります。そこで眞面目な醫師は、まづ精しく診察をし、血液の檢査まで立ち入つて診察をいたしますると、一寸

不思議相に思はれます、然しこれは無理もないことで御座いまして、單に貧血と申してもそれには又種種の意味が御座います。自分が貧血であると思ふても、全くさうでない事があり、或はその病氣は、血液の變化ではなく、全く他の臟器の變化が主になつて居るやうな場合もあるので御座います。

醫學の方に於きましては、貧血を大體大きく二ッに別けて居ります、卽ち原發性貧血、これは實際他の誘因がなくて、血液、或はその成分に病的の變化があるもの、それから續發性の貧血、これは他に原と成つて居る所の病氣がありまして、その病氣が又血液に害をして居ると云ふもの、かう二つに別けて居ります。

血液循環、血液の成分

貧血と云ふことを正しく理解いたしまするには血液の意味と、組成に就て二三の事柄を承知して居る事が必要で御座います、血液は心臟の筋肉に依つて、身體の總ての部分にまはされて、生活に必要なる酸素と、それから食物に由つて攝取され、胃腸の中で消化された物質を、筋肉だとか、神經だとか云ふ種種の器官に持ち運び、且つ使ひふるされた物質や、炭酸をそれらの器官から運び去り、その代りに又身體に必要な榮養物質と交換するもので御座います。酸素と炭酸の交換は肺臟で行はれます。身體に必要な物質は、幾分か肝臟に留りまして、その用ゐ盡された液體の物質は、更に排泄される爲に腎臟の方へ引渡されるのであります。

さて血液自身は、粘著性の赤い色の液體で御座いまして、これを器物に入れて靜かにして置きますと、二つ部分に分れます。卽ち紅い色の血餅と、その上に溜る所の無色の液體、所謂血清で御座います。血清は今日に至りましては、身體の爲の種々の防禦物質の保持者と稱せられて居ります。血餅は纖維素、卽ちフイブリンと血球とから成つて居ります、この血球がこの問題にとつて、最も大事なことになるのであります、血球はこれを赤血球と、白血球とに分

ちすまるが、血液に赤い色を與へる處のこの赤血球は、小さな圓いビスケット形の物でありまして、その眞中は少しく凹んで臍が笑凹のやうになつて居ります。白血球はこれよりは稍大きな、色の無い物でありまして、どなたも嘗て顯微鏡で水滴の中に御覽になつた事があるだらうと存じますが、丁度あのアメーバのやうな生活機能をいたして居ります。この白血球と申しますものは、謂ば身體内の兵隊さんで御座いまして、外界から何ぞ攻擊が加はりますと、何處にでも直ちに派遣されます、即ち危害の加はつた場所に駈けつけまして、體内に入り込むところの黴菌類を皆な食べてしまひます、そうして刺などが刺りますと、それが更に侵入しないやうに堤防を築きます。この小軍隊の集合を吾々は焮衝或は化膿と申します、普通の狀態に於きましては、成人は一立方ミリメートル即ち二厘三毛四方の中に、五千乃至八千の白血球を有して居ります。

赤血球は、全くこれとは別な役目をいたしまして、これこそ生命の保持者であります、即ち身體のあらゆる組織に酸素を持ち運ぶ役目をいたして居るのであります、然しこれは酸素を遊離して持つて居る譯ではなく、複雜なる有機的化合の有樣にて、ヘモクロビンとして持つて居るのであります、この化合物は赤鐵を含んで居りまするが、このことは又改めて申し上げる事にいたします。赤血球の數は一立方ミリメートルの中に男の成人では大約五百萬、女では四百五十萬程で御座います。この赤血球のヘモグロビンの含量は直ちに、その機能に關係いたしますから極めて必要な事で御座います。それで、これは種々の方法に由つて測定されまして、プロセント即ち百分率でもつて云ひ表はされます、赤血球及び白血球は、絶えず新しくなりまして骨髓と脾臟から造り出されるのであります。

貧血の種類

簡單に以上の事柄を承知いたして置きまして、それから貧血の模樣に付いて稍精しく申上げなければな

りません。
先づ貧血と云ふのは、何んな人を云ふのでありませうか、その主なる特徴は顔が蒼白い、それから脣であるとか眼の結膜であるとか、總て眼で見られる所の粘膜の色が蒼白い、それから貧血の人は、倦怠を訴へ、すべて仕事が面白くない、娯樂さへも樂しくない、食慾が惡くなる屢〻頭痛がする、胃痛が起る、氣を失ひ易いと云ふやうな事がよく訴へらるゝ事柄であります。

前にも既に申上た通り、此の場合に醫師は、これらの徴候は最初に蒼白色を呈する所の他の病氣で、全く血液の變化はない他の病氣に由來するのではないかと云ふ事を確めなければなりませぬ。それは何んな病氣かと申しまするに、まづ心臓の筋肉の衰弱で御座いませうか、これは重病の後に、例へば實扶的里後の衰弱が殘り、或は生れつき虚弱であるとか、或は必要な力を得るだけの、全身の榮養が足りないとか云ふやうな事から、血液を皮膚の血管に追やるだけの十分の力がないので御座います。然し屢〻心臓筋肉自身は十分力がある、發達しすぎてるほど力強いが、然し血液殊に酸素を含んで居る血液を、身體の遠い部分に迄送る働きの十分でない者が御座います、即ちその途中に障碍があるのであります。心臓に病氣が起る、例へば大きな動脈の初まりの部分が狹くなつたといたします、そうすると、何時でも體に循る血液は僅になりまして、皮膚の血管をよく充す事が出來ず、從て元氣のよい顔の色がなくなる譯で御座います。これに反して血液が心臓に這入ります部分が、何かの原因に依つて妨げられます時には、炭酸を含んで居る所の血液が、久しく皮膚の血管内に止まりますから、從つて何時も顔の色が赤いやうに見えます、美くしい赤い色ではありますが、注意して見まするど、眞の薔薇色ではなく、稍蒼味を帶びて居ります、且つ小さな皮膚の血管が擴張して居るのを認めます。又心臓の筋肉も、血管も健康である、然るに皮膚の血管が神經性の影響に依つ

て、絶えず狹くなつて居る事があります。皮膚の血管の收縮の擴張には、神經が大變關係して居るのであります。何ぞ嬉しい事があるとか、まごつく事などがありますると、これが擴張する、即ち顔が赤くなるのであります、この赤面は特に過敏な人に於きましては、面ばかりでなしに、全身にも行き渡るものであります、これとは反對に驚くとか、心配するとか、恐怖れるとか云ふ場合には皮膚の血管は收縮する、即ち面が蒼くなるのであります。そして多くの人は、その皮膚の血管が絶えず收縮して居る程、神經性に興奮せられて居りまして、何時も蒼くて、何時も手と足が冷めたい、そして頭痛がしやすい、然しこれは貧血と云ふべきものでは御座いません。次には血液そのものゝ變化に就いて御話しをいたしまするが、眞に貧血と云ふのは、血液に乏しい、即ち血液の量が少くなつて居るのを申すのであります、人間の血液の量を精密に量りますことは仲々困難な事で、從來行はれて居ります方法も實地上に應用する事はむつかしく御座います、然し大出血の後、例へば怪我をしたとか、或は大手術などの後などには、血が少くなると云ふ事は明らかであります、血液の損失が非常に高度になりますときには、必要だけの液體量を又造らなければなりませんが、それには多小血液を補ひ得る所の、一定の割合の食鹽水を注入いたします、然し餘り重くない場合には、血液の量は自から忽ち舊に復するものでありまして、獨立の病氣としての血量減少は未だ確定して居らぬ事で御座います。

この他貧血は、血液の形態的成分に關係して居る事があります、白血球は、稀に減少する傾がありまして、若し重症の病氣に於てかう云ふ事があれば、これは大變よくない事でありまして、前にも申上げました如く、白血球は身體の防禦を助けて居るものでありますから、若しも病原物がこれに打勝つて、亡ぼす事になれば、恰も敵が防禦軍を捕虜にしたやうな譯で、吾々の體が危ぶなくなつて來るのでありま

す、然るに他の一面に於きましては、これが著しく殖える事が御座います、例へば重い傳染病などに於きましては、二倍にも三倍にも殖える事がありまして、これは良い徴候と看做れるのであります、これに反して、その原因に付いてはよく分りませんけれども、無暗に白血球が多くなる事が御座いまして、別に外部からの作用がなく、恐らく血液を造る所の器臓の病氣に由るので御座いませうが、かやうな血液の成分では、身體が保てぬ程多くなる場合が御座います。恰も國民が餘り過分防備に依つて、經濟上の破產の危險に陷ると同樣に、身體は最早この兵隊の過剰に堪えなくなり、必要だけの赤血球を造る事が出來ない、かくなりましては、その運命は明らかであります。所謂ロイケミイ卽ち白血病の場合はかやうな狀態になるのでありまするが、その原因及び本質はまだ明らかでない點もありまするし　餘り複雜でありますから、その御話しはこゝには差控へる事にいたします。

赤血球は最も屢〻血液の變化を示すものでありまして、先づ其の數が減少する事がある、そしてその減少も頗る高度に達する事があります、それから赤血球のヘモグロビンの含量が減少する事がありまして、健康の人では、七十乃至八十プロセント位のヘモグロビンでありまするが、それが六十とか五十とか重症の場合には十プロセント位までになる事が御座います。この減少の意味は明らかで、前に申上て置きました通りヘモグロビンと云ふものは、酸素を持ち運ぶものでありまするから、これが減少すると云ふ事は、身體の組織が酸素の榮養が困難になると云ふのと同じ意味であります、この貧血は矢張り他の病氣の繼發症の事が御座います、例へば熱性病、肺の病、惡性の腫瘍、腎臟炎、胃腸加答兒などから來る事が御座います、又單純の榮養不給がこの結果を來す事がありまするが、然し肥つて居る貧血患者も御座います、けれどもかやうな人は、其の筋肉が健康の人のやうに緊まつては居りません、何んとな

しにブク〳〵して浮腫んで居るやうに見えるものであります。
獨立の疾患たる貧血と、繼發性なる貧血の間には、無論幾多の移り行きがあります、貧血は又胃の血管に血の通ひを惡くいたしまして、胃腺からは、胃液がよくでません、分泌が不完全であります、その結果貧血と榮養不給が加はつて參ります。
貧血は本病でありましても、實際これが爲に實に多數の病狀を引起して來るものであります。例へば頭痛、輕度の眩暈發作、その爲に失神する事もあります、又倦怠、不快、神經系統の輕度の刺戟症、學生の理解力不良、胃痛及び消化不良等がこれであります。

（以下次號）

結核患者に對する注意書

紐育市では、結核病の豫防撲滅に就て殆ど全力を注いで、種々樣々の設備をなし計畫を立てゝ居りまして、模範とすべき事も澤山御座いますが、その外來診療所に於て、醫員が各患者に、生活法、運動法、食物の養生法等何くれとなく懇篤に敎へまして、尙ほ英語、獨逸語、伊太利語等にて認めた注意書を、その患者の使用國語に從て與へることになつて居ります。それが頗る要を得たものと存じますから、御參考の爲に左の譯文を掲げることに致ます。

總說

一、結核病は長くかゝるけれども、治癒る病ですから、氣を落してはなりませぬ。

一、醫師の敎示は、嚴重に守らなければなりませぬ、數ヶ月を費して得た好結果も、不養生の爲に忽ち之を失ふことがあります。輕快と云ふのは全治したことではありませんから、指定された期限の間は、必ず外來に來ることを忘れてはいけませぬ。

一、自分の病氣の事を醫師看護婦以外の人に話しなさるな。

一、他の患者の話を聞き、又は暗示を受け、自分の病氣に就て、他人の治療法に隨つてはなりませぬ。

一、命令通り必ず外來診療部に報告することを怠つてはいけませぬ。熱出で、消化惡しく、下痢、便秘、疼痛、咳嗽加はり、赤色の喀痰などの出るときには、直ちに外來診療所に通知なさい、若し自身に來ることが出來ない程衰弱した場合には傳言でも宜しい。

一、血を吐くことがあつても恐れてはなりませぬ、宜しく安靜にして醫師又は外來診療所に使を走らすことであります。

一、病氣の治療法としては、新鮮の空氣、善良なる食物及び適當の生活法は、藥よりも大切なることを心得、醫師の處方せざる藥を飲用してはなりませぬ。

一、養生園に入院の相談があつたならば、直に入院なさい。

一、家族、友人又は近所の人にて頑固なる咳嗽をするものにて醫師の治療を受けて居ないものあれば、外來診療所に來るやうに忠告なさい。

咳嗽と喀痰

一、なるべく咳嗽をしないやうにし、痰の出る時だけ咳嗽をするやうに力めなさい。

一、咳嗽をするときにはハンケチ又は手を以て口を覆ふやうにしない。

一、喀出した痰の中には病原菌を含むで居ますから家族の方々や友人、隣人に危險であります、故に注意して取扱ひなさい。

一、家の内では半分程水を充した痰壺中に之を喀出し、少なくとも一日一回は便所に棄て、痰壺は熱湯にてお洗ひなさい。

一、然し紙製の痰壺を用ひて、後に之を燒棄てるのが最も宜しい、紙製の痰壺は外來診療所で差上げます。

一、外出の際には、外來診療所で與へられたる紙袋

の中に喀出し、使用後これを燒棄し、又は紙袋の中にモスリンを入れて置きて之に喀出し、歸宅の後燒棄てなさい。

一、若し外出の際に此等の痰受を持なかつたならば、下水の中にお喀きなさい、決して道路に喀出してはなりませぬ、又嚥下でもいけませぬ。

新鮮の空氣

一、なるべく外の空氣中に居り、なるべく公園、森林或は原野に居るやうにし、冷水を忌む要はありませぬ、隙間の風、濕氣、塵埃、烟を避けなさい、塵埃や烟は、雨や雪よりも害があります、夜氣を恐れなくとも宜しい、夜の空氣は晝よりも塵埃を含むことが少なく却て無害でりあます。

一、閉込めた熱い室の内に止ることは宜しくない、室の空氣の流通を良くするやうになさい。

一、夜中少くとも一つは寢室の窓を開放つて置きなさい。

一、なるべく自分だけの室を備ふるやうになさい、若し出來なければ、牀だけは必ず專用のものでなければなりませぬ。

一、家の内にては空氣の流通と日光の十分射込む室に居り、なるべく敷物を用ひず、小形の絨緞を用ひなさい。

一、病人が室內に居るときに掃除をしてはいけませぬ。

一、拭掃除は、必ず濕した布片でなさい。

一、壁覆や天鵞絨製の家具、その他塵埃の附き易いものを用ひてはいけませぬ。

食物及び榮養品

一、食事の前後半時間は、牀の中又は橫臥椅子によりて休息なさい。

一、身體又は精神の疲勞せるとき、又は神經の過敏なるときは食してはいけませぬ。

一、善き衞生的の食物を十分食べなさい、常食の外には一日一クォルト(三合餘)の牛乳、三乃至六

個の新しい鶏卵とバタと砂糖は、嫌にならぬ限りお食べなさい。

一、徐に食し、良く食物を嚼み、不消化物をお避けなさい。

一、食器は使用後必ず十分お洗ひなさい。

一、特別に許された場合の外は、煙草と酒を飲むではなりませぬ、食事の間には新しい水を十分お飲みなさい。

一、食事の前には十分手を洗ひ、特に指の爪をお洗ひなさい。

休息

一、不必要の運動をしてはならぬ。走ることも宜しくない、重い物を持つてはいかぬ、疲勞したるときは、決して歩行其他の運動をしてはなりませぬ、運動をする場合にも疲勞するまで行ふてはなりませぬ　銘々行ふべき運動と其種類とは醫師の指圖を受けなければなりませぬ。

一、早く牀に就き、少くとも八時間は安眠するやうになさい。

一、勞働しなければならぬ人は、なるべく多く休息するやうになさい。

一、醫師が安息療法を命ずるときには、臥牀又は横椅子に依て椽側、物見臺又は開放した窓の傍に於て休息なさい。

衣服

一、季候に應じて下著を加減し、胸當を用ひてはいけませぬ。

一、緩やかに且つ巧に衣服を著、頸や胸を緊めてはいけませぬ。

一、脚は乾いて且つ溫く保たなければならぬ、雪や濕氣の多い時には靴覆をお用ひなさい。

身體の衛生

一、身體は淸潔に保ち、一週一度は必ず溫浴し、石鹸にて良くお洗ひなさい、又醫師の指圖に從て局所冷水浴或は全身冷水浴をなさい。

一、惡い習慣は總て止めなければなりませぬ。

一、齒は規則正しく磨きて淸潔に保つやうになさい。

一、必ず日々腸の通じを良くなさい。

一、髭は剃るか又は短くして置きなさい、接吻してはいけませぬ。

一、穢くなつた自分用のハンケチ類は乾かぬやうに注意し、汚れたときには直ちに水に浸して置いて洗濯しなければなりませぬ。

一、決して賣藥や廣告療治に依て金と時とを費してはなりませぬ、此等は何れも全く價値のないものであります。

病人の家族及朋友に對する心得

一、若し病人が喀出した唾や痰を直ちに燒棄るときは、これを他人に感染せしむることを防ぎ得るのみならず、又病人自身の恢復を早くするものであります、右の條件を守るに於ては、この病氣は決して傳染するものではありませぬ。

――（をはり）――

身體美と衣類

醫學士　中村芳助

耶蘇教の聖典の中には『爾曹何を著んとて思煩ふこと勿れ』と云ふ基督の有名な說教の句が御座いますが、今日では、實際一方には何を著んとて思煩ふ貧窮の人があるのに、又一方には如何に著んとて浮身をやつして居る人々が大變に多くなりました。

年々季節の移り變り目には、多數の貴婦人方の間には、此の問題が主なる話の種となりまして、流行は恐るべき威力を示して參ります。恐らく御婦人方は何人にしても、全くこの影響を免るゝことは出來なからうと思ふ。柄と云ひ模樣と云ひ、種々樣々な變なものが出來て參りまして、中には勿論良いものも又頗る奇怪なものもありますが、その目的とする所は、何れも專ら只女を美しく見せやうと云ふ一點にある。代々の流行物のはやりすたりを觀察して見まするのに、その美の意義は、隨分種々に變るもので、

なか／＼範圍の廣いものでありまするが、兎に角その終局の目的は、何時も身體の輪廓、身の周りの美を高めると云ふことに在るのでありまして、流行は、多少古くなつた趣味に對して、所謂美の需用に對して起つて來るのであります。

單に氣候の變化に對する防衞の目的のみならず、身體の裝飾として衣服を用ゆることは　非常に古いことでありまして、野蠻人が非常に毒々しい色を以て身體を彩る所などを以て見ても想像されることで、つまり身體を美しく見せ度いと云ふ本能より起つたものに相違ないのであります。それから羞恥の情も衣服の起りに關係して居ります。今日に於きましても、性慾に關する裸體の意義は、各種族、各國民各各異る所がある。ある研究旅行家が、全裸體になつて居る濠洲の黒色婦人に、その肌を被ふ爲に赤いフランチルを贈つたそうであります。所が此の無邪氣なる自然の產兒は、この美しい布を腰には纏はずして極めて巧みに頭に纏いたと云ふことであります。

ブラジリヤ、ジャワ等の熱帶地方の婦人は、全く裸體で平氣である、寧ろ今日の普通人の恥しがる所にその純潔を認めて居るかと思はれるのであります。

この衣服の應用に依て、又種々の國民、種族に於て身體の種々の部分が羞恥の領分となりました、例へば支那の婦人は足、朝鮮の婦人、其他一般の東洋婦人は顏、歐羅巴婦人は胸其他の部分と云ふやうに色色恥しがる所が出來て來たのであります。

偖てこの衣服と云ふものが發明せられた以來、これまで每日裸體で平氣で居たものが、段々身體を被ふと云ふ好奇心が起り、空想の衝動が盛になつて來たのであります。

衣服の種類や形と云ふものは、最初は只身體の裝飾の目的であつて、それが氣候に應じて種々のものが出來て來たものと思はれる。それで北方の寒帶地方のものは緻密に暖かな衣服を著る、例へばエスキモの婦人等は、地の厚い、身體の形に適合した衣服、特に獸の皮の衣服を喜ぶ、斯う云ふ點から又恰度男

子のズボンの如き長い無格好な脚衣を著けて居るが、熱帶地方では、輕い襞の多い衣服を好む、溫帶地方に住んで居る歐羅巴婦人の服裝は、確かに此の熱帶婦人の服裝の影響を受けて居る。例へば、輕い上著と、帶や釦金でとめて濶く襞の多い裳とで出來て居る所のシャムの若い婦人の服裝は、殆ど現今の西洋婦人服の原形とも見るべきものである。此の相異は、同じ日本の內でも多少見える、奧羽地方の婦人は、可成良家の婦人であつてもツヽポを著、モンペ又はフンゴミと稱して角兵衛獅子の袴の如きものを穿いて居る、これは確かに前のエスキモ式の嗜好と需用とに由るものであらうと思はれます。

衣服を應用して身體の美を高めると云ふことは、元來間違つた考であるが、之に由て何れの國の婦人も、文明國と云はれる程、愚なる服裝をするやうであります。支那婦人の纏足の如きは、その極端なものでありますが、之を嗤ふ所の西洋婦人の足も、程度こそ異なれ、矢張あれに近いものであります。實に非衛生、非生理的の靴を穿いて威張て居るのであります。これは未だ宜しいと致しましても、彼のコルセットと稱するものに至ては、決して支那婦人の纏足に劣らぬ無法のものでありまして、その害は遙に纏足に勝さつて居る。此の刑具に等しき裝飾用具に依て畸形にされた西洋婦人の骸骨を見ますると、胸廓は、第五肋骨以下の內側の方に壓潰され、略ぼ直角をなして居るべき下は方の肋骨は、甚しく鋭角をなして胸廓の緣に集まり、殆ど中線に觸れる位になつて居る。それで胸廓の下口、卽ち腹の方の口は、自然の大きさの三分の一位しかなくなつて居る。その內臟に及ぼす危害は云はずとも明かなることであります。斯樣なものは決して我國に流行させてはならぬのであります。

獨逸の人類學者で有名なストラッツと云ふ人の言ふ所では、今日の歐羅巴の婦人並びに少女の百人中九十五人は、その誤つた生活法と不適當の衣服に由て身體が不完全になつて居る、實際正常の發育を遂げ

た體格の者は僅かに五プロセントしか無いと云ふことであります。更に此人の擧げて居る統計に依て見ますと、千八百七十年に生れた百五十人の女の兒の中百人だけ生存して居るものと假定する。そうしますと、統計の示す所に據て、十年の後には、三十五人が英吉利病、即ち佝僂病に罹り、十五人は腺病或は結核になる。

更に十年後には、其殘り五十人の中、二十人は、强く身體を括るとか、酢の如きものを飲むとか云ふことに由て、何時も身體が細長く、蒼白で、全く身體を毀して居る。

それより更に五年の後には、最後の三十人の中、少なくとも二十五人は、妊娠時期が進むでからも長い間コルセットを掛けて居ると云ふやうなことから尋常の體形を損した。

故に今現に生存して居る百人の婦人中、三十五人は英吉利病、十五人は腺病、二十人は强く括ることに由り、二十五人は分娩產褥に於ける不適當の處置に由て不具になつた。即ち百人中九十五人は不健康者で、滿足の身體を持て居る婦人は、百人中僅に五人を餘すのみとなる。

是に由て觀るときは、苟も人の母たるものは、單りその兒の爲めのみならず全人類の爲に大に顧慮する所がなければなるまいと思ふ。尤も我國婦人の服裝は、西洋婦人の服裝よりも、衛生上非難すべき點が少ない。然し決して最も理想的の服裝とは申されません。忌憚なく言へば、餘りだらしのない服裝である。贅澤な服裝である。徒食者の服裝である。人に見せて誇とする虛飾なるに、人に見えぬ下着のやうな物までも染色を施した贅澤な物を用うるは意を得ない。コルセット程の害はないとするも、馬鹿に幅の廣い高價の帶を幾重にも胸に卷いて堅く緊め、特に夏季暑を忍んで此の重荷を擔ふことは、迚も賞讚し難い服裝である。前の婆娑〱して脛やはぎの露けれるは不體裁極る服裝である。少しく雨に濡れ、僅に泥がはねても廢物となるやうな衣服は、全く牀

置の人形の衣服である。活動的の人間の服裝では勿論ないが、裝飾用としても不都合なものである。彼の袖は勿論不必要不便の贅物である。況や近來の如く、身分も財產もわきまへず衣服の爲に贅澤を盡すやうな虛飾虛榮を事とするやうな時代に於ては、日本の婦人服は國の災である。特に良家の婦女も貴婦人も、藝娼妓等醜業婦輩の下劣淫靡の風俗を追ふやうになつては、風敎上の害毒、墮落である、斯樣な種々の點から見て余は日本婦人服の不贊成者である。何うしても之を改良しなければなるまいと思ふ。然しながら法律を以て今日一般婦人の服裝を制定し制限することも出來まいから、何うしても世に有力なる聲望ある婦人、感化力に富める婦人の良心と衞生思想とに依て、彼の醜業婦等の感化力、否誘惑力に打勝つて漸次高尙なる、科學的、衞生的の堅實なる婦人の思想風潮を呼起して來るにあらざれば、迚も合理的の婦人服、世界一の日本婦人服改良は六ケしいのであります。兎に角單に虛飾一方に走つて、自個の身體を毀傷し、子孫にまでも累を及ぼして、不都合なる時代服裝の競爭をしなくとも宜しい。美と健康との調和を計る衞生思想の立場より、今日の日本婦人服裝の改良を希望するのであります。獨逸の詩宗ゲーテが作ファウストの中に次の如き句がある。

千萬筋の鬈髮に　たとへ鬘をつくるとも、
一尺高き足駄に　縱令汝が足を置くとても、
やがて汝たる汝にはあらじか。

左手利の養成

マンフレツド、フレンケル述
A S. 生 抄譯

既に一世紀も昔に、屢々侮どられ、又一方からは非常に賞讃された事のある兩手利の運動が又起つてま

ありました。私は目下の要求として、まだ一定して居らぬ種々の問題を解明する爲に澤山の材料、殊に學校に於てもう少し深入りした試驗が行はれるであらうと信ずるのであります。その手初として既にケイニヒスベルヒに於て、これが試られました、然るに遺憾な事には、ケイニスベルヒでは唯一回の講習で滿足してしまひました。それでも事實上、左利の敎習は、少しも害がない、のみならず種々の種類の事に有益である事を、確める事が出來たのであります、これに就いて引くるめた所の判斷はどう云ふかと申しますと『左手は、その修養能力に於ては、右手に劣らぬ。技術的能力に於て、殊に質の良い兒童は、この素質は左手の仕事に於ても、矢張右手利と同樣に著明に現れる。兒童は年齡を重ねてる程、又物事がよく解つて居るほど、左手講習に於ける進步がいよ〳〵早い。豫め右手の練習をしてある事は、左手敎授には少しも妨げとならぬ、のみならず、既に習らされて居る眼が共動するからして、却て著しく容易である。それで左手の練習は、まだ固まらぬ初學者だけにさせねばならぬと、主張するのは誤りである。講習の結果は、日常起る所の總ての手業に現れる。此の事情に通じて居る人は、左手講習は此に由て、著しく右手を強める助けとなり且つ此の練習は、少しも過度の勞力とならぬ。敎員の爲にもそうである』と云ふ事であります。この試驗的講習が示した所の立派なる成績に基いて、世人が試驗的學級或は持續的講習に移らぬのは、如何にも殘念なことであります。

從來左手は、如何なる地位にあつたか、吾々の腦髓とは如何なる關係を持つて居るか、概して日常生活に於て如何なる意味を有つて居るものでありませうか。

吾々の眼や耳や、感覺に依る所の外界の印象は、相集まつて腦に於ける所謂記憶象となりて其處に宿る、而して感覺に上る所の頻回の度に依り、腦に受ける刺戟の大さに依りて、これが吾々に習慣的にな

るまで感覺に達する、(例へば書寫、讀書の際に於ける物體の應用の如く)、それで吾々が一物體を示す所の言葉を聞くや、既に本能的に直ちに其の用途、形態等を知るのでありますが、併しこれには如何に複雜なる生理的作用が與かつて居るのでありませう。吾々は更に一歩を進めて考へて見ますのに、通常吾々は、總ての運動を右手で以て致して居ります。實に總ての人間の九五半%、卽ち百人中九十五人までは右手利であることは何方も御承知のことである。從て右手を支配して居る所の左の腦が、前に申したやうな總ての記憶象の貯藏所になつて居る譯であります。斯樣に右手が勝つて居るのでありますから、何うしても左の腦髓が最も屢々印象と刺戟とを受け、其結果最も銘記し易く、實に殆ど總ての、殊に最も困難なる運動の集合所と成て居る譯であります。

之に反して、左手と之に相當する所の腦の右半部は繼子と云ふ有樣であります、それで左手は全く右手に隷屬して居ると云ふ風で、左の腦半球と右の腦半球との間には甚しい偏頗がある、これは精しい試驗が示して居る所であります。そこで右手の方は左手の出來ない種々の事が出來ると云ふのみならず、左手で出來ると云ふ殆ど總ての事は、右手に由て出來るのである、右手の助けに依て出來る、或は間接に右手に依て初めて學んだのであると云ふても宜しいのであります。

斯の如く左の腦髓(右手の監督者)には總てのものが服從して居る、卽ち凡て吾々の思考、感覺、行爲、書寫及び運動等が服從して居るのに、獨り右腦のみは、殆ど此等の何物をも所有して居らぬのであります。卒中發作に依て右手が麻痺して、獨り右腦にのみ賴らねばならなくなつた所のある患者に就ての檢査は、此の人は、一擊の下に言語と右側の運動を奪はれ、今や嚮導者の無い左手を以ては何事も出來ず、一の廢殘の骸と化つたと云ふことを敎へて居りますが、これは左手が何にも出來ない、健康でありなが

ら、右手と同樣に痲痹したやうなものであります。人間は、全く同等に且つ完全の形を具へて、而かもそれが種々に發達した所の兩肢を有する動物の唯一の例であります、即ち手がそれであります。

實に人間は故意に一方の手を他の手よりも重ずるのみならず、半片輪を自慢してゐる。即ち左手の不器用を善いことにしてゐるのであります。尙ほ此の流儀に依て貴い精神力の寶を奪はれて居る。即ち今日の世の中では左の腦髓を激烈に働かさなければならぬ、その要求に依て左の腦は益す甚しく働き、消耗されるに從つて、その重荷を輕くする要求が著しくなつて參ります。故にこの要求は正當なることで、左手の發達及びその利用、從つて右腦の發達及びその利用が必要であります。

此の左手の養成に就ては、私は數年來筆に口に唱へて居る所でありますが、私は倫敦に修學旅行を致しました際に、英國の學校では、これが精神並びに身體の關係に於て無量の價値あることを十分立證し得たことを認めました、且つ英國では教員も學者も同樣に之に氣が付きまして、遂に高官の注意を引き、陸軍の方面にては大にその有益なることを認めたのであります。

兩手利のバーデン、ボウエル將軍は、次の如く申しました。『兩手利の價値は、陸軍的の見地に於て偉大なるものがある。余は、兵士が兩側から同樣に善く馬に乘り、兩手を以て武器を使用し、右肩よりすると同樣に、左肩からも迅速に且つ正確に射擊し得るにあらざれば、之を根本的に教育された兵士とは云はぬ』と。故に學校にて左手の練習をせしむることは、あらゆる武器の種類を使用する軍人の教育を容易ならしむるものであります。

兩手利が總ての方面に向て有利なること並びに全く少しも不利益の點がないと云ふことは、何れの實地家も申して居る所でありまして、等しく有爲の兩手を持つて居ることは決して害が無い、又總て大事の場合に臨では、兩手利の片手利に勝ると云ふことは

爭ふべからざる事であります。兩手利なれば非常に便利であり、或は便利なるべき筈の職務及び職業數は實に澤山である、左手養成の熱心家なるジャクソン氏が、近頃左手利の便利なる職業を八百種數へ擧げました。且つ此の改革を實行致しますのに、少しも費用も面倒も要らぬと云ふことは、最も都合の良いことで、特有の教科書も要らなければ學力も要しないのであります。現に有して居る學力で自ら練習することが出來、且つ遲れても差支がない、幼少の時から兩手を用ひて居るのであるから、別に準備も何も要らぬのであります。教授法は、只左手を練習しやうと思ひさへすれば、それで宜しいのである、さうすれば殆ど總ての事は自ら出來るのであります。

（以下次號）

育兒

自然と兒童

ペー、ホツヘ述
莊司秋次郎譯

自然を慕ふ人間の熱情は、未だ曾て冷めはてたことはない、かく文化の進める今日に於ては、人間は昔よりも一層自然の懐に觸れんとする情の切なるものがあるやうに思はれる。實際吾々の神經質性にして、輕浮なる時世は尙も誤れる人世觀を是とするであらう、ます〱纖弱にして淫靡なる快樂を供するであらう、ます〱新に風俗を改變せしむるであらう、蓋し各その時があるのである。併し自然が行ふ所の深甚秘密の法術は、尙ほ神ながらなる深遠の法力を

失はず、假令吾々が離れんと欲するとも自然の母より得離るべきものではない。千紫萬紅の我を誘ふ時、新なれどもしかも常磐に神さびたる聲の呼ばふ時、吾等は喜々としてこれに趨り、その歡樂を嘯き、平和の樂を享ける、こは世間の技巧の如何にしても與へ得ざる所のものである。故に吾輩はルッソーが心に響く警聲を繰返す、曰く『自然に歸れ!』と。然るにても小兒は、始終その生命の若やぎの泉に伴れ歸らねばならぬ、獲る所なうして此の純眞なる天福の泉に飲むことは決してないのである。

自然の中に於ける生活は、發育盛の人間に取りては一般に重要であると云ふて宜い。小兒が廣野に於て獲得する所のものは何ぞと云はゞ、そは先づ豊かなる觀念の資である、明確なる智識の大なる材料である。然るに口惜くも、今日の學校教育は、矢張り多くは抽象的に言辭を以て行はれる有樣である。而してその言辭たるや、往々全く小兒の考へ及ばざる所である。廣き郊野にありては、小兒に談る所のものは人間の口にあらずして、事々物々自らその解し易く信ずべき言を吐露するのである。郊外にありては、幼兒と雖亦山と谷との何たるを解するに苦まず、何をか『足穗の波』といひ、何をか『泉潺々』といひ、また『風樹颯々』といふかは、目睹してこれを識るのである。自然は小兒の精神上に新なる觀念を造るに於て實に無盡藏である。而して此等の觀念は、人が以てその一切の工夫考案を立つる所の資料となるものである。

吾々現今の人間は、餘りに讀書子となつた。吾々は死文字によりて餘り多く學ばなければならぬ、而かもそは往々その事物を一見すれば、甚だ容易にして且忘るゝなきに至り得る所のものである。郊外の自然に於ては、事情これに反し、學ぶ所は偏に經驗に依り、己自個の知見に依るが故に、その價値の大なるや同日の論でない。小兒が只耳學問に覺えたる物、朧氣に心に浮べる事共も、こゝには具象の姿を現し、以て觸るべく、以て把るべく、味ふべく、聽くべく、

視るべからしむるのである。斯の如き五官の練習は、現時の人間には殊の外必要のことである。専ら精神的敎育の偏重さるゝに際して、五官の練習を忘れざらんことは、人間を不具に陷れしめざらんが爲には、倍〻肝要のことである。

美的敎育の爲にも、小兒は自然と親しむに於て利する所甚大なるものがある。現代の警語は斯く要求する。曰く『小兒の生活にも亦藝術を以て入れ』と、果してこの要求にして、小兒の感情を、凡て眞實の美を感得するに堪へしむるとの謂ならば、吾輩は全然この願望に參同することが出來る。然れば小兒は只宜しくこれを郊野に誘ひ總ての感官を以て現象世界を觀取することを學ばしむべきである、かくて一切の美を正當に評價する上に於て、得る所限りなきものがあらうと思ふ。美術心も亦自然と親むに出て油然と起るであらう。凡そ活眼以て、日影に浮ぶ一切を觀取せんものは、藝術家の製作に成れるものをも亦より善く尊重するに至るものである。豊なる諧調的の色彩と、萬種の形質とを具有する自然は、やがて又小兒に對する善良なる趣味の學園たるべきである。

小兒はその鄕土を知り、土著的の心持となり、ますます周圍の景色の特徴に沈潛し、こゝに一度は愛鄕心となり人をして安堵せしむる所の彼の溫柔にして而かも強矯たる情緒は生ずるのである、この作用は決して侮るべからざるものである。これやがて固定の性格を成すに至るものにて、大なる倫理的價値を有することである。そもヤコブ王は、その詠史「アルヒバルド、ヅウグラス」に於て、追放されたるロールドに向て何とか叫べる、曰く『爾の如く鄕土を愛する者こそ、眞實の忠義とは謂ふべきなれ』と。――こは敢て小兒が風景の好き地方に伴れ行かるゝ爲とは限らぬ、若し最初自然との交渉親密を得ば、假令一見みばえなき荒野と雖、尙ほ人をして戀著せしむるに足るでのある。

故里は

眞こも亂るゝ沼澤地
汐風さゆる荒磯邊
岩根こゞしき山の峽
草木も生へぬ砂土の
原といふともよしえやし
眺むる人の心だに
直からませば故里の
しのぶることのなくてあらめや

斯く親しく自然を觀察することは、所謂自然心を小兒の心に喚起せしめ、且これを養成する上に於て價値少なからぬことである。自然心とは、啻に自然現象の玩味認識に止まらず――勿論自然敎育の最初の階段は何時も斯くあるべきなれども――尙ほこの第一歩の結果として、人工的、技巧的、チョコ才的のものに對して、總て自然的原始的のものを好愛する所の自强の精神の謂である。然して總て健全簡素、純樸を喜び、各種の不自然的、虛飾的のものを厭ふことは、諸種の嗤ふに堪へたる似而非文明の現時に於て殊に必要である。野外に於て吾人を迎ふる所の天然自然と眞理實際とは我が全人に侵徹し、我が一切の處世法にその方針を與ふべき筈である。

右に述べたる如き、敎育者たる自然のあらゆる敎化をして盛に兒童に及ばしめんと欲せば、家庭は何を爲すべきであらうか。多少これを思はゞ、先づ幼者を屢〻自然の中に伴れ出すことが第一の義務である。幸にも兒童の心中には『戶外へ』と云ふ、止むべからざる熱望が活きてゐる。室内に蹲まつてはゐたくない、どうしても自由の自然中に生活したいのである。宜しくこの熱愛を是認すべきである。吾等は兒童を伴ふて郊外に到ること甚稀なり、しかく貴重なる歡樂も、これを樂しむことなうして空しく繚亂たるに委すのである。然れどこは啻に出遊するを以て足れりとせず、又以てこの行を玩索するに價する。然れば兒童をして、須らく活眼を開かしむることを要するのである。『眼よ飮みね、瞳目の執る所、爛漫たる天地盈々の間』と。兒童の原野を跋涉するに方

つてや、我儕成人の往々なすが如く、內觀に耽りつゝ、酔步者の如くに徘徊すべからず、宜しく各現象の狀勢をして自己身上に作用せしめなければならぬ。而して十分にそれを精察することを學び、各個の事柄を經驗せねばならぬ。唯一の蟻群と雖も、これを觀察し且思考するに餘あるではないか。その傍には美しきサルヒヤ繁り、土蜂これに止まりて蜜を吸はんとす。靜に身を花に屈むれば、粉囊はその內容を動物の背上に託して、他花の雄蕊に運ばれんとするを見む。目に見たる昆蟲撒粉のこの一例は、確かに忘れはつることはないであらう。又幾多の孔穴に依りて土燕(Erdschwalbe)の巢たるを知らるゝ彼方の懸崖は土中に諸種の地層を現はして、郷國の地殼の構造を知るに適好の機會を與へて居る。彼處には、獨逸の森なつかしげに我等を迎へ、萬目悉く綠である。而かも眞に悉く翠なるかと云はゞ、然り、然れども其間又許多の色調がある。直ぐ行くての樺、山毛櫸の鮮かに明るみある彌生の綠より、莊重なる松樹の深くくすめる暗綠に至るまで、尚は幾多の階級がある。

只能く活眼を開いて自然の中に逍遙せば、野外に在りては、步々此の如き經驗を爲すことが出來る。然れば倘も繰返し言ふ『刮目せよ』と。且つ親たるものは、その兒等に善例を示さなければならぬ。野外にありては、家に於ける一切の苦慮を放下せしめよ。途上過ぎにし損失を悲み、來るべき利得を思ひ、或は隣人に對する怨恨を懷くものは、本より何物をも視ぬのである。然して兩親の心を止むるを認むれば、兒童は又その自然現象に就て非常に興味を起すのが常である。これ亦與にするの樂は倍蓰せる樂の謂である。

但此際親たるものは、自然の美に對する彼の凡俗なる風流的溺美に陷てはならぬ。兒童は空言乃至優柔の雅情に誘惑すべきものでない――これは實に又眞正の自然心と一致すべきものでない、天眞爛漫に悖ることである。兒童は明敏に觀察することを學ぶべき

である。さすれば歡喜は自らその若やかなる胸中に油然として起るものである。眞正の自然觀察よりは、その成果として、自ら道德的、審美的の啓發を受けるわけである。然れば衒學的、學校敎員的方法を廢めよ、あらゆる強迫を廢めよ、こは徒に兒童をして最美のものにも嘔氣を催さしむるに過ぎぬ。然れどルッケルトの『われ崖の上に登り立ち』(Ich stand auf Bergeshalde) 或はストロームが森の歌『彼方へ』(Abseits) の如きは、郊外に謠ふに宜し、必ずや心中に道を得て、そこに根を下すであらう。兒童が一定の觀照と明瞭なる記憶象とを家に齎らすことは常のことである。この目的に向ては、總て見聞せるものを書止むることの出來る寫生帖を携へんことを勸める。畫筆を執て操作するに及んで初めて、如何に吾人の目擊の倉卒に掠め去りしかを悟るものにて、描畫ばかり精察を學ばしむるものはない。自然を愛し、萬彙を愛するの情は、又採集に依て喚起さるゝものである。植物品彙の計畫は是非勸めたいものであるが、下等動物に就ては、その品彙の計畫は、たゞ此の領域に就て極めて顯著なる天禀の才あるものに限らなければなるまい。樅の毬果、荒野の小草、蘆の花、麗しき鳥の羽、さては金石等諸種の物體は、何れも小兒室の萬種の裝飾に應用せられ、冬季に於ても尙ほ四壁の間に一幅の自然を致すことが出來る。この關係に於ては、一畦の庭園と雖、亦無限の趣がある。此處に兒童は植物及び動物の生成蕃息を觀察すべく。雛の小禽、薮陰の雌鳥、路の邊の蝸牛、何れも歡興の眼を以て觀察することが出來る。我が園の中に生立てる小兒は、決してその動植物に暴虐を加ふるものでない。室内に於ける花卉栽培も亦歡興を與ふるに足る。アンデルセンの御伽譚『天使』の示すが如く、一輪の花も、小兒生活には豐富なる内容を與ふるに足るものである。鄕國化育の力は、唯これを己にのみ作用せしむるときは無限に大なるものである。兒童は慣るゝに從つて、自然の靈泉より掬むに、ます〱豐なる發達を

遂げる。巨人アナテオスの昔譚に云へり。彼は其の母たる地球に觸るゝ毎に、常に新なる力を得來れるなりと。吾人に向つて、又何れの時代に向つても此譚はその遠深の意義を保つことゝと思ふ。

牛乳消毒罎の危險

人工榮養の小兒、即ち牛乳を以て育てゝ居る所の小兒が、往々便祕を來して困ることがある。而かも其の原因が分からない、種々の説もあるけれども、確かな説が無かつた。然るにグライフスワルドの藥學教授のフーゴー、シウルツと云ふ人が、今日まで人の考へつかなかつた方面に原因を求めて、面白い試驗をして、其の意見を獨逸のある醫學雜誌に發表して居る、育兒の責任あり、又育兒に注意して居る婦人方の參考となるべき事と思ふて、玆にその概要を記する。

其の説に依れば、人工榮養兒の便祕を起すのは、硝子の牛乳罎から、乳の中に硅酸が移行する、それが原因であると云ふのである。即ち牛乳を消毒する爲に、乳を入れた硝子罎を長い間高い温度にかける、さうすると其の熱に由て、硝子から硅酸が牛乳の中に出て行く。試驗の成績に就て見ると、牛乳罎を造る所の硝子が惡るい、從つて安物の硝子罎ほど硅酸の出方が多い。純粹のソクスレット罎が、一番硅酸の牛乳中に移行く量が少ない。其の試驗の例を示せば、罎に依て硅酸の牛乳中に移行する量は左の如くである。

	標準罎	安價罎
一、	〇・〇一一六	〇・〇三〇〇
二、	〇・〇〇〇〇	〇・〇〇一六
三、	〇・〇〇二八	〇・〇〇五二

これに依て見れば、ソクスレット罎と他の安物の硝子罎とでは、硅酸の出方が大分違ふ。且つソクスレット罎では、初の一回だけは硅酸が牛乳の中に混じて行くけれども、其後は大丈夫である、然るに他の

安物の硝子罎では、何時までも、温める毎に硅酸が出る。

故に哺乳兒の人工榮養には、上等の硝子罎を用ひんことを勸める、且つ初めて使用する前には、一度水を以て長時間罎を煮るが宜しい、これは牛乳罎に限らず、普通斯様な食器を初めて使ふ時には、何時でも煮てから使ふのは善い方法である。

又バロー氏病と云ふて、生後六ヶ月乃至一年位の間に最も多く起る所の病氣で、佝僂病に能く似て居る、或は急性の佝僂病であると云ふ人もあるが、皮膚や粘膜が高度の貧血狀態を呈し、齒齦から出血し、肋骨や手足の長い骨が肥厚し、運動するときには疼痛が起ると云ふやうな徴候を示す所の一種の病氣がある。其の原因に就いも種々の說があつて、此の病氣は、兎に角牛乳のみを以て育てる小兒に多いから、何か榮養上の缺陷に由て起るものであらうと云ふ事になつて居るが、フーゴー、シユルツ氏は、これも恐らく硝子罎から、硅酸が牛乳の中に混じて、その硅酸を多く食するに原因して居るだらうと云ふて居る、之も一考すべきことであらうと思ふ。

兩親の飲酒と子孫の痴愚

エル、プライスと云ふ人が、兩親の飲酒と子孫の痴愚との間には何んな關係があるかと云ふことを研究して、次の如く論じました。

酒は依的兒、コロラールピドラートなどゝ云ふ毒物と同列に屬するもので、身體の中に入るときには、血液と共に各個の臟器に至つて、組織に滲透りて、その原基質たる細胞基礎質を侵して、こゝにその毒作用を呈するものである。

然し酒の毒の大に憂ふべきことは、これを飲む人自身が害を受けるに止まらず、その餘弊は子孫に及んで、酒客の子孫に痴愚のものが生れることであります。

酒客の子孫に精神病者や痴愚のものゝ多いことは、

既に昔時から唱へられて居つたことであるが、始めて此事について檢査をしましたのはレーシユ氏でありまして、同氏は一千八百三十九年に、酒客の子九十七名を檢査して、尋常のもの十四名、殘りの八十三名は、重い神經質又は精神薄弱なることを認めました。又巴里の大學教授のマルチン氏の檢査に據りますと、八十三名の癲癇持の小兒の中、酒客の子は六十名もあつたと云ふことであります。

伯林の小兒科醫のデムメと云ふ人は、酒客の家族と、酒客でないもの丶家族、即ち非酒客家族とに就いて、その子供等の精神及び身體の狀態を檢査して、左の如き成績を得ました。

酒客家族十　　　　兒童五十五名

內譯

夭死(薄弱、痙攣、加答兒)二十五名(四三・八%)

疾病(癲癇、痴愚、舞蹈病)二十二名(三八・六%)

健康　十　名(一七・五%)

非酒客家族十　　　兒童六十一名

內譯

夭死　　五名(八・二%)

疾病　　六名(九・八%)

健康　　五十名(八一・九%)

こ丶に擧げた所のものは、發育障碍でありまして、精神低格の因となるものでありますが、酒の毒は、固よりこれに止まりません、只一回の飮酒(急性中毒)にても若し受胎の際に起りますときには、これが爲に、その子孫に變性を起さしむることがあります。巴里ビセートル白痴院長の檢査した成績に依れば、同院に收容せられた白痴、癲癇、精神薄弱及びヒステリー性兒童、總計二千五百五十四名中、二百三十五名は、確かに其父が酒に醉へる際に受胎したもので、八十六名は多分同樣であつたらうと信せられるものであつた。

又ベツオラ氏の調査に依りまするに、瑞西にありては、精神薄弱兒童の生れるのは二月、五月、六月及び十月が最も多い、蓋し此等の月は、瑞西では醸酒

の關係上、酒を飲む機會の最も多い月に相當して居るのであります。

ビセートル白痴院長の調査した所に依れば、白痴、精神薄弱、ヒステリーの爲に收容せられた兒童の兩親の飲酒の關係は左の如くでありました。

父酒客	一〇二七名（四三・二％）
母酒客	八三名（三・六％）
兩親酒客	四五名（一・九％）
兩親酒客ナラザルモノ	一二一九名（五一・三％）

右の表に依て見ますると、此等兒童の約半數は、直接に酒のために、又は酒の共同作用の爲に痴愚となつたものであることが明かであります。

露西亞、諸威及び米國に於ける調査の成績も矢張これと同樣であります。

精神薄弱者のために設けられた、所謂補助學校に於ける調査の成績も亦同樣に、飲酒が子孫に及ぼす影響の著しいことを證明して居ります。シユミツト、モンナルドと云ふ人が、獨逸のハルレ補助學校に於ける生徒について調査した所に據れば、百二十六名の精神薄弱兒童中、一九％にありては兩親の酒客なることを證明されたと云ふことである。又倫敦白痴院醫員のフレッチヤー、ビーチ氏の調査に據りますと、四百三十名の白痴の中、三一・六％は酒客の子であることを確認することが出來たと云ふことであります。

其他幾多の學者、實地家の調査に據て見ましても大抵同樣の成績を示して居ります。

是に由て觀るに、兩親の飲酒が、その子孫の身體及び精神の上に、著しい影響を及ぼすものであると云ふことは明瞭な事實であります。此の如くにして酒客の子孫は、代々繼續して行くことは頗る六ケしいことで、巴里のレグラン氏の調査する所に據りますと、酒客の家族は、已に第二世に於て、著しい變性徴候を呈するものであると申します。

——（以下次號）——

病兒看護の要領（承前）

〇〇〇〇異常體質　何れの小兒も一定の體質を具へて此世に生れて來るものでありまして、これは榮養する上に於て適當の注意を要する事柄であります。看護者としては、先づ第一に其の小兒は、特に神經質の小兒でないか、或はツエルニーと云ふ人の所謂滲出性（炎症性）體質の小兒ではないかと云ふことに注目しなければなりません。何故ならば、此種の異常體質の小兒は、健康の哺乳兒よりも餘程氣をつけて看護しなければならず、其の榮養も、それ〴〵の場合に應じて種々適當に加減することを要するからであります。而して病氣の經過は、その榮養の方針、種類に由て變つて行くものであるからであります。

神經質の小兒は、何んな風かと申しますと、普通の小兒の快げに安穩なるに反して、非常に物に驚き易い、容易に睡眠を中絶する、卽ち目を醒し易く、往往何う云ふ譯とも解らず不安である。人が靜に寢牀の傍に參りましても、何ぞ見馴れぬ物が顏の前に現はれると、忽ち針でゞも刺れたかと思ふ程、烈しくびつくりする、而して往々これに由て起る所の不快を叫聲に依て表はすものであります。健康の小兒であれば、斯う云ふ場合には、不思議さうに眺めて、大抵、にこ〳〵して其の新しい出來事に對する快き印象を表するものであります。

次に滲出性體質の小兒は、何んな風かと申しますと、これには種々の徴候が現はれます。この徴候の著るしいものを擧げて見ますれば、顏面が紅く、脆いやうで、鱗屑があり、殊にこれは頰の邊の皮膚に著しい、乳痂と稱するものであります。而してこれが甚だしい濕疹になることがある、卽ち皮膚炎を起して來ることがあります。それから頭の髪の生へて居る部分に鱗屑や痂皮が出來る。非常に注意するにも拘らず創が出來易い、屢々反復して鼻加答兒を起す。又中耳炎を起し、頸の邊の腺が腫れると云ふ風で、遺傳黴毒のある小兒に似て居ります。

斯様な神經質の小兒並びに滲出性體質の小兒に於きましては、牛乳を以て榮養を過度にすることは、全く特別の注意を要することでありまして、榮養を換へれば良效を奏する場合が多い。これは醫師の診斷及び治療の方針に俟たなければならぬことであります。

（以下次號）

家庭衛生

瓦斯中毒者の手當

人間に取ては、空氣は、魚の水に於けるが如きものでありまして、暫も缺くことが出來ない、五分と呼吸せずに居ることは出來ません、忽ち死ぬるのであります。斯程大切なる空氣でありますから、此中に有毒なるものが混じて來ては大變である。塵埃でも黴菌でも少しも之を含まぬと云ふ譯には參りませんが、可成左様な異分子の無い方が宜しい、金屬、鑛物等の粉末、又病原菌などを含む所の空氣を呼吸することは固より有害でありまするが、更に恐るべきは、有毒の瓦斯の混ずることであります。有害瓦斯が空氣中に混ずるのは、恰も魚の棲で居る池水の中に石油や藍などが混ずると同樣のことで、其中に住むでゐる人間はばた／＼斃れて仕舞はなければならぬのであります。工業が漸次盛になり、照光法なども種々の裝置を用うるやうになりますから、從つて種々の瓦斯中毒が多くなつて參ります。新聞紙上に屢々報道せらるゝのを見受けます。それで中毒を起す危險の瓦斯の種類、中毒の模樣、將た其の場合に於ける救急處置を心得て置くことは、家庭衛生上無用の事ではあるまいと思ひますから、一通お話致します。

有毒瓦斯の種類

有毒瓦斯と稱するものゝ中には澤山種類がありますが、普通中毒騷を致しますのは、燈用瓦斯でありま

す。それから酸化炭素、炭酸瓦斯、亞酸化窒素、硫化水素と云ふやうなものであります。

所　在

燈用瓦斯は、大抵瓦斯管の栓を開放にして置くとか或は管に破損を生じて其處から漏洩して、室内に籠もり、その爲に中毒を起すものであります。酸化炭素は、普通純粹のものではありません、大抵閉込めた室内で炭や石炭を燃して其の爲に生じた不純の酸化炭素瓦斯に由て中毒することがあるのであります。
炭酸瓦斯は、古井戸、鑛坑、地窖、酒麹の醱酵所、衆人雜居の密室内、又噴火口等の内に發生致します。
亞酸化窒素は一に笑氣瓦斯と申しまして、これは稀に吸入痲醉に用ゆることがある位のことで、自然にこれが爲に中毒を起すやうなことは餘りありません。硫化水素瓦斯も、硫黄泉や古井戸又は汚溝、其他硫黄を含むで居る有機物が腐敗するやうな所に發生するものであります。

中毒症状

以上の如く種々の有毒瓦斯があつて、人が之に逢ふて中毒を起し、或は爲に死することも往々ありまして、其症状も瓦斯の種類に依て多少相違はありまするが、大概似寄つた症状の下に窒息して死亡するのでありますから、茲には實際最も多く、又家庭に於て注意しなければならぬ所の酸化炭素及び燈用瓦斯中毒の症状を總代として申上げて置きます。
炭酸瓦斯は元來色も臭も無いものでありますが、通常中毒を起しますのは、炭や薪を燃した時に生ずる所の一種固有の臭氣を有する所の不純の炭酸瓦斯に由るのであります。燈用瓦斯は勿論甚しく臭氣があります。偖て此等の瓦斯を呼吸して中毒する場合には、如何なる症状を起して來るかと申しますと、其の輕度の場合は、大概何方も經驗されたことゝ思はれる。即ち戸障子を閉め切つた室内に木炭を盛に燃し、殊に其の火鉢の上に顏をかざして居りますときには、先づ頭痛がして參ります。それから胸が惡くなり、何となく息が苦しくなつて來る、これらが

輕い中毒の症狀であります。それが甚しくなりますること、耳鳴、眩暈、惡心、嘔吐、呼吸促迫、痙攣等の種々の症狀が起り、脈搏も數が多く細く遲くなり、遂に窒息して死んでしまふのであります。つまり酸素と結付くべき筈の赤血球の血色素が、酸化炭素と結付て、酸化炭素ヘモグロビンと云ふ生理の目的に適はぬ異樣のものとなるので、窒息するに至るのであります。

豫　防

大抵有毒瓦斯の蓄積して居る處には、一種の臭氣がありますから、特別の必要の無い限りは誰も左樣な處に行きもせず、居りも致しますまいが、例へば古井戸とか鑛坑とか、下水道とかさなくとも、古く閉てあつた倉庫等に入る場合には、往々瓦斯中毒の危險があると云ふことを心得て居りませんと、多少臭氣がある位は固よりの事として平氣で這入ることがあります。これが危險である。斯樣な場合には可成新しい空氣を入れるやうにし、又蠟燭を點じて竿の先に附けて插入れて見る、而してこれが燃えなくなり或は消えるやうであれば、決して其內に這入つてはなりません、但し斯樣な瓦斯の籠つて居る場合に蠟燭を點じて這入ることは甚だ危險なことでありまして、瓦斯の大爆發を起すことがありますから、これはよく〳〵注意しなければならぬ事であります。故に瓦斯中毒者を救助せんとする場合にも、決して洋燈や蠟燭に點火して其の室內に進入し、或は其室內にある洋燈などに點灰してはなりません。電燈なれば室內の瓦斯爆發を來す恐れは無い。尙ほ寢室に瓦斯燈を用ゆることは感心の出來ないことで、若し熟睡して瓦斯の漏洩に氣付かぬやうなことがあれば窒息する恐がある。止むを得ぬ場合には、瓦斯燈の活栓を確實に閉塞すること、瓦斯管に破損の無いやうに常に注意することを怠つてはならぬのであります。

療　法

偖て茲に瓦斯中毒者が出來たと云ふ場合には、先づ

如何にすべきか、此場合には、第一着に患者をその場處から外に引出さなければならぬ。併し此際には、救助者自身の危險に就て用心を怠つてはならぬ。人を救はんとして自分も同一運命に陷つてはならぬ。それで其室內に瓦斯の蓄積して居ることが分かつたならば、前にも注意した通り、決して洋燈や蠟燭を點して室內に這入つてはならぬ。先づ可成速に戸窓を開いて新鮮な空氣を入れなければならぬが、これには出來得るだけ外の方から窓を開き、それから室內に驅込んで手早く患者を外に引出すか、止むを得ずんば出來得るだけ迅速に窓を悉く開放つか壞はすことが必要である。尚ほ深い井戸の內や、鑛坑の內などに斃れて居る中毒者を救ふ爲には、種々の用意をしなければならぬが、それは玆に必要もない事と思ふから略しまして、愈よ患者を外に救ひ出すことが出來たとすれば、今度は、其の狀態に應じてそれ〳〵の手當を加へなければならぬ。即ち人事不省に陷つて居るか、嗜眠昏睡の狀態に在るか或は全く假死の狀態に陷つて居るかに從つて、應急の處置を施さなければなりません。多くは醫師の來るを待つ遑がありませんから、其間に出來得るだけの手當を試みなければなりません。

中毒の輕いものは、只外氣中に出して十分新鮮なる空氣を呼吸せしめただけで恢復致しますが、冷水を吹掛けるとか、鼻や咽頭の內を刺戟するとか、酒類を與へるとか、その他何でも興奮劑を與へ、脚浴せしめ、或は芥子を捏て貼るとか云ふことは、普通の家に於て試み得ることであります。併し身體の內に可成酸素を取入れて、減少して居る赤血球、用を爲さなくなつて居る赤血球を出來得るだけ働かして恢復させるのが第一主要の目的でありますから、息の止つて居る時には兎も角も人工呼吸を施さなければなりません。人工呼吸法は、恐らく度々其の要領を御聞になつて御承知の事と思ひますが、危急の場合に臨んでは別にやかましい方式に拘はる必要はありません。普通の呼吸の早さ位の調子に胸の下の方を

壓したり緩めたり幾度でも繰返すのであります。此際もう一人の助手が患者の頭の方に坐つて其の兩腕を捕へ、一人が胸を壓す時には矢張腕を患者の胸の兩側に壓し、胸を緩める時には患者の腕を頭の方に引擧げると云ふやうに兩者調子を揃へて人工呼吸を施せば大に有效であります。其中に醫師が來れば、其の模様次第にて酸素を吸入せしめるとか、横廓膜神經に電氣を通ずるとか、或は刺絡を施し又は食鹽水を注入し、其他適應の手當を施すと云ふ譯であります。

養老の注意（承前）

醫學士　志田義三

次に往々困るのは食餌攝生でありまするがこれには先づ其人の習慣を顧慮しなければなりません、と云ふて衞生上不適當なことは止めなければなりません。老人は往々偏窟になり、或は氣六ケしく苦情を竝べるやうになりまして、なか〳〵自分の思ふたことを抑制しやうとはしない。さうかと思ふと又他のものは一向食物を欲しがらない、至て僅かしか食べないので、力めて其の克己主義を破るやうにしなければならぬやうな場合も御座います。

老人の食物、榮養は、なるべく偏頗にならぬやうに、これは若い者でもさうでありまするが、殊に老人の食物は可成變換することが必要であります。豆腐が好であるからと云ふて、何時も豆腐ばかり勸めるやうではいけません。自分で種々料理や獻立の指圖もし、且つ經驗上それで滿足して居るものがあれば、大概その意に任せて差支は御座いません、只止むを得ぬ場合には、食餌の處方に從ふことを強ひなければならぬ必要も起るのであります。

注意しなければならぬのは、食物の分量でありますが、一般に腸の内で醱酵、腐敗を起し易い飲食物は、老人には少量でも宜しくない。例へば生の果物、麥酒の如きものは兎角良くないやうである。斯樣な物

に對して老人の胃腸の過敏なることは隨分著しいものがあります。これは胃消化に於ける反酵素の減少、所謂老人性胃酸缺乏と云ふことに關係して居ること、思はれます。又各個人に依て特異質と云ふものがありまして、例へば蕎、瓜、茸、蟹などを食べると忽ち腹痛を起すとか、皮膚に發疹するとか云ふ癖の人があります。尤もこれは老人に限つたことではありません。人に依りましては、多少酸酵を起すものを食べて、却て具合の宜しいことも御座います。即ち酸乳だとかケフィールだとか、或は酸味のある菜等であります。酸酵するときには殆ど何時も瓦斯が出來ますから多少胸が張るものであります。米、乾した豆類なども斯樣な作用がありますので、瓦斯が外に出ませんと老人などは此が爲に苦痛を覺え、便通も惡くなります。生の果物、或は煮た果物でも、老人には多少斯う云ふ氣味のあるものであります。併し青菜や果物を全く食ぬ譯には參りません、これに依てその中に含むで居る鹽類を攝取するのでありまして、これが缺けると、蛋白質の酸化作用に依て生ずる所の酸を中和し、排泄する作用が乏しくなりますので矢張新陳代謝が障碍されるのであります。それで老人で菜や果物などを食べることが困難な場合には、規則正しく一瓦乃至二瓦位づゝ重炭酸那篤留謨即ち重曹を用ひなければなりません。

老人が飲食物の量を攝制することは眞に大切の事でありますが、然し食事に就て不快な事があつたりしては、矢張これから老人性の食慾缺乏症が起つて參りますから氣を付けなければなりません。

（以下次號）



雜報

○牛乳中に亞砒酸

政府は昨年毒物劇物營業取締規則を發布して以て毒

劇物の販賣授與に對し頗る嚴重なる取締を實施したるが、今尚其害を絕たず、現に先月五日東京市本所區横川町五十一番地硝子業大塚清一方勝手元に、貳罎の牛乳を置き見本として進呈すとの意を記したる紙片を貼付しありたるより、家人は牛乳商の擴張運動なりと信じ、夫婦及幼長女の三名にて飲用したるが、間もなく苦悶を起し、嘔吐下痢甚だしく、醫師の治療にて辛くも生命を保ちたり、此事當局者の知るところとなり、直に右牛乳罎に就て檢査したるに、罎底に少なからざる量の毒藥亞砒酸の沈著しをることを發見せり、實に戰慄すべきことなり。

〇不良少年と家庭

東京感化院に收容せられ居る最近不良少年につき、その原因別を百分比例に示したるを記すれば、

愛情の過度	二二、二	冷淡な教育	一一、〇
背酷の教育	二、一	遺傳の不良	三、二
生母の不良	二、九	妾腹	一、二
朋友の不良	一、七四	地方風俗の不良	四、九
不詳	一二、七	無教育	二、四
家庭教育の不完全	二〇、〇		

の割合あり、尚ほ同院の調査にかゝる六百五十一名の收容不良少年家庭別を見るに、身分にすれば、華族八名、士族百八十四名、平民四百五十九名、職業別によれば商業三百五名、官吏六十三名、銀行會社員二十九名、高等官十九名、醫師十八名、教育家十五名にして、比較的上流の家庭に多しと云ふ。

〇結婚及び離婚統計

明治十六年より四十二年に至る二十七年間の結婚及び離婚數は左の如し。

明治	結婚數	離婚數	結婚（人口千に付）	離婚（同）
一六年	三三七、四五六	一二七、一六二	九、〇	三、四
一七年	二八七、八四二	一〇九、九〇五	七、六	二、九
一八年	二五九、四九七	一一三、五六五	六、八	三、〇
一九年	三一五、三一一	一一七、九六四	八、二	三、一
二〇年	三三四、一四九	一一〇、八五九	八、六	二、八
二一年	三三〇、二四六	一〇九、一七五	八、三	二、八
二二年	三四〇、四四五	一〇七、四七八	八、五	二、七
二三年	三二五、一四一	一〇九、〇八八	八、〇	二、七

二四年	三二五、六五一	一一二、四一一	八、〇	二、八
二五年	三四九、四八九	一一三、四九八	八、五	二、八
二六年	三五八、三八九	一一六、七七五	八、七	二、八
二七年	三六一、三一九	一一四、四三六	八、六	二、七
二八年	三六五、六三三	一一〇、八三八	八、六	二、六
二九年	五〇一、七七七	一一五、六五四	一一、七	二、七
三〇年	三六五、二〇七	一二四、〇七五	八、四	二、九
三一年	四七一、二九八	九九、四六四	一〇、八	二、三
三二年	二九七、四二八	六六、六二六	六、七	一、五
三三年	三四六、五九〇	六三、九二六	七、七	一、四
三四年	三七八、六三七	六三、五九三	八、三	一、四
三五年	三九四、三七八	六四、三一一	八、六	一、四
三六年	三七一、一八七	六五、五七一	七、九	一、四
三七年	三九九、二一八	六四、〇一六	八、五	一、四
三八年	三五一、二六〇	六〇、一七九	七、四	一、三
三九年	三五三、二七四	六五、五一〇	七、三	一、四
四〇年	四三三、五二七	六一、一九三	八、九	一、三
四一年	四六四、九四〇	六〇、三七六	九、三	一、二
四二年	四三八、七七一	五九、一一八	八、七	一、二

○渡米者腸寄生蟲檢査

神奈川縣廳にては、主務省の命令に依り、米國渡航の二三等船客に對し、十二指腸蟲を主として腸寄生蟲の檢査を施行することゝなり、去月八日出帆の佐渡丸より同二十九日解纜の同船に至るまで三百八十四名にこれを實施したるに、その成績は左の如くなりしと。

一、十二指腸蟲卵保有者、合計八十六人、被檢者に對する百分比例は二十二人强

一、蛔蟲卵保有者、百二十一人に對し三十一人强

一、十二指腸蟲及び蛔蟲卵以外の蟲卵保有者、百八十八人に對し四十八人强

一、鞭蟲卵を有する者、百七十四人に對し四十五人强

一、全く蟲卵を有せざる者、百二十四人に對し卅二人强

○避暑保養所の成績

昨年香川縣高松市四番町小學校に於て父兄會の事業として西洋に行はるゝ森林保養所の制に倣ひ、身體虛弱なるもの及び腺病性體質の兒童を同地栗林公園

の一部に收容して避暑保養所と名づけ夏期休業中新鮮なる空氣中に於て滋養食料を給し適宜の運動を奬勵して體育の改良を計りたるに、其成績頗る見るべきものありし由にて、今その著しき效果として報告されたる所を見るに左の如し。

一、疾病殊に呼吸器、消化器病をして輕快若くは治癒せしめしこと
一、體質を強壯ならしめしこと
一、榮養を善良ならしめしこと
一、體量を增加せしめしこと
一、食慾を增進せしめしこと
一、精神を快活ならしめしこと
一、動作を敏活ならしめしこと
一、夜中安眠を得せしめこと

○獨英兩國の看護婦界

左記は去月二十八日三井慈善病院に於ける同院看護婦長綿谷禮利子女史が視察談の大意として東京醫事新誌上に掲載せられたるものなり。

妾は去年の夏獨逸キヨルンに開かれました萬國看護婦大會に、吾國を代表して赤十字病院の萩原さんと一所に派遣せられました、往きには西伯利亞を經て直接伯林へ參りました、會は八月四日から開かれることになつて居ましたので、妾共が伯林へ著きましてから會の始まる迄には十日許の時日がありました、妾は其の間の時を伯林で過し、市立の二三の病院やら看護婦會やら、慈善病院などを參觀致し、特に彼地の看護婦の働らき振を見ました、會が終りましてからは英國へも行きまして、同じく彼地の看護婦界に就て多少視察致しました、今其の狀態の外に聊か大會の有樣を御話しようと思ひます、少しでも皆さんの御參考になれば幸福な次第で御座います

▲獨逸の看護婦界　先づ驚きますのは凡て病院の規模の大きなことゝ其の設備の完全な事とで御座います、一病院は少なくとも千人位、多いのは九千人も收容する事が出來るさうであります、賄所とか洗濯場とかへ行きましても、迚も、想像のつかぬ樣な大仕掛に出來て居ります、病室の整頓は皆一樣で御座いました、中にも妾の目につきましたのは病室內に必らず草花が美しく飾つてあつた事であります、これは彼地の人が草花を大層愛するからでありますが、

唯だ病室の裝飾になる許でなく餘程病人の慰樂になるだらうと思ひました、一病室には大抵少なくとも三十人の患者が居ります、其に對する看護婦の數は僅かに五、六人しかありません、其の中の一人が主任であつて色々の指圖をして居ります、そんなに少數の看護婦ですけれども仕事はチャーンと出來ます、何故だかと委しく調べて見ますと、皆が勤務時間中は一分の休みもなく、誠に忠實にそして秩序的に働らいて居るからだと云ふ事が分りました

看護婦の寄宿舍は一人一室の制度で、これも設備は洵に完全で御座います、皆が衛生と云ふ事に餘程注意するので病人なんかは稀れなさうですそれから夜勤の者は一定して居りまして、其の人々は晝間休んで夜の九時に晝勤の人と交代する事となつて居ます

何處の病院にも一定の徽章をつけた外は、其の服裝で務に少しも他の看護婦と變らない篤志看護婦と云ふのがあります、これは大抵良家の方で一定年月の講習を受けてから實際の看護をなさいますので、病院の忙しい時の外は夫々家庭の人でありまして、勤務中と雖も皆無給と云ふ事になつて居ります

看護婦會は大抵一つの會に三千人以上の看護婦があります、其の看護婦は普通少し年を取つて居つて、そして經驗に富み、成績も良い人でなくてはいけない事になつて居ます

彼地で看護婦になるには看護法に關する事は勿論、其の外に料理、家政等の勉強もするのであります

看護婦の服裝は至つてお粗末で質素此上なしと云つた風であります、外出する時は黑い色の著物に同じく黑い帽子と云ふ事に極つて居ります、院内では小倉地の縞の著物に白い前垂を懸けて居ります、白粉を附けたり、頭かざりに浮身をやつすと云ふ樣な人は少しもありません

大會の開かれたキヨルン市の某病院で皮膚病の蠟細工を見ました、大變よく出て居りましたので、誰が造るのですかと尋ねましたらば、看護婦の製作に係る者であるとの答でありました

▲會況　看護婦大會は八月四日から八日迄都合五日間ありました、集つた人は凡てで九百三十八人、これを國別に致しますと二十二ケ國となります、第一日はキヨルン市の歡迎會で、次の三日間に議事がありまして、最後の八日にはナイチンゲール嬢が勉強したカイザルベルトと云ふ所へ參りました、議題は次の四でありました

(一)看護婦の國定試驗

(二)看護婦の過勞

(三)看護婦の教育訓練に對する取締の任務

(四)看護婦の社會的事業

第一の看護婦の國定試驗と云ふ事は、英米兩國では既に行なつて居るさうで御座いますが、獨逸にはまだなので、其の代表者の申しますには、國定試驗と云ふ事は是非其の必要があるから、國家は之に對して何とか盡力して戴きたいと申して居ました、日本にも行く〳〵國定試驗の樣なものが出來る事を希望致します

第二の看護婦の過勞と云ふ事は實例が澤山ありまして、其の過勞の爲めに精神に異常を來すものも少なくないのであります、これに就ては可及的好く待遇する樣にしたい者だと云ふ事になりました

第三の議題は嘆しい事でありますが、つまり十分に責任を盡くすと云ふ事に外ならないと云ふ事にきまりました

最後の看護婦の社會的事業と云ふ事に就ては、各國中特に英米獨及び加奈陀では中々盛んださうでお座います、例へば米國では醫者と協力して看護婦が虚弱な兒童の世話をしたり、又小供の夭折を防ぐ爲めに産前産後には母に色々な注意を與へたり、或は學校へ出張して學童に衛生上の事を敎へたりするさうであります、又獨逸では肺病患者收容所を起して、爲に結核患者が大變少なくなつたといふことで御座います。

（以下次號）

廣告

○婦人衛生會例會

本會二月例會は、一日午後一時半より神田區一ッ橋通り共立女子職業學校大講堂に於て開會、醫學博士遠山椿吉氏を講師とし『米の話』と題する有益にして興味多き講話ありたり、即ち博士は、最初に消化機能の大略を說明し、米食の沿革より精米法の進歩を說き、白米の健康上に及ぼす影響を精細に論じて、その不利なる點を擧げ、これが改良法を推奬せられたり。右講演中精米法の沿革を示すべき幾多の圖畫を供覽し、多數の表を掲げ、尚ほ博士が試驗用に供せられたる米の精白等級、其れより出でたる糠の量及び色、特に沃度に依て褐色に著色する度合に依

て精白の程度を示されたる標本は、頗る聽衆の興味を引けるものなりき。講演終りて後階下の別室に於て茶菓の饗あり、歡談の間來るべき總會につき協議する所あり、散會せるは午後四時過なりき。因に當日出席の本會役員姓名は左の如し。

鳩山春子　濱尾作子　山口貞子
田村きよ子　長谷川仲子　守屋千代子
岩下ゆか子　鶴原誠子　丹波貞子
山本多穗子　宮下咲子　岸澄子
岡田德子　（以上出席順）

○新潟支會の義金

大正元年十二月三十一日新潟市の漁夫十一名無慘の溺死を遂げたることは已に新聞紙上に報道せられたる所なるが、私立大日本婦人衞生會新潟支會は協議の上、これが爲に金拾圓を寄附したり。

○本會入會者

○羽田三緒子紹介
●小石川區武島町七　特別會員　羽田種子
○事務所申込
●府下代々幡村富ヶ谷一四六　通常會員　石河久美子
●秋田縣小坂鑛山山ノ手一八　通常會員　石田文子
○柏原ちか子紹介
●松本市田町北門一二三三　通常會員　田中よしえ子

○山形支會入會者

●特別會員　渡邊きち子
●通常會員　小關崇子
●通常會員　千葉茂子
●通常會員　平野內さく子
●通常會員　仲野艶子
●通常會員　高橋まき子
●通常會員　山崎ひで子
●通常會員　赤木勘子
●通常會員　丹羽藤江子

○新潟支會入會者

○中村しげ子紹介
●特別會員　竹山ろく子
●通常會員　阿部おとき子

○轉居

●府下下目黑三〇八へ　久保田不二子
●宇都宮市松岸町十八へ　山梨英子

私立大日本婦人衛生會役員氏名

會長 侯爵夫人 鍋島榮子
副會長 男爵夫人 濱尾作子

（いろは順）

幹事 鳩山春子
同 岡田徳子
同 山本多穂子
同 松平芳子
評議員 石川眞子
同 濱田拾子
同 服部繁子
同 西外子
同 緒方悦子
同 小川孝子
同 片山龜子
同 丹波貞子
同 田村きよ子
同 男爵夫人 南部殷子
同 山口眞子
同 古市幸子
同 岸澄子
同 三宅藤子
同 宮下咲子

同 羽田三緒子
同 高木鉄子
同 三浦牧子
同 岩下ゆか子
同 長谷川仲子
同 仁禮壽賀子
同 土肥多越子
同 岡山とし子
同 男爵夫人 加藤鈴子
同 吉武輝枝子
同 高橋孝子
同 鶴原誠子
同 中濱芳子
同 子爵夫人 松井正子
同 伯爵夫人 阿部篤子
同 菊池峯子
同 宮本樂子
同 守屋千代子

婦人衛生雜誌代價及廣告料

代價

一冊 定價金貳拾錢 郵稅壹錢
三冊（三ケ月分） 前金郵稅共 金四拾五錢
十二冊（一ケ年分） 前金郵稅共 金壹圓八拾錢

廣告料

一頁六十二行 一行二十三字
壹頁 金五圓 半頁 金貳圓五拾錢
○特別廣告 壹頁金拾圓 半頁金五圓
○半頁以下行數ヲ以テ計算スルモノハ一行貳拾五錢

規定

○本誌講讀申込ノ節ハ前金三ケ月分以上本會事務所宛ニ送附セラルベシ但シ見本ハ郵券ニテ貳拾壹錢代用苦シカラズ○本誌休讀ノ節ハ速カニ報知セラルベシ通知ナキ分ハ講讀者ト見做ス但シ後金ニハ割引ナシ○轉居ノ節ハ新舊宿所通知セラレタシ

大正二年二月十七日印刷
大正二年二月二十日發行

東京市本郷區根津西須賀町九番地
編輯者兼發行者 韮司秋次郎

東京市本郷區駒込林町百七十二番地
印刷者 今井甚太郎

東京市本郷區駒込林町百七十二番地
印刷所 杏林舍

發行所 東京市麴町區富士見町二丁目三十二番地 私立大日本婦人衛生會事務所

賣捌所

東京市本郷區龍岡町 吐鳳堂
同市銀座四丁目 東海堂
同市京橋區鎗屋町 耳明堂
同市本郷區本富士町 明文館
同市同區春木町 南江堂支店
京都市寺町二條南入 若林茂一郎
東京市日本橋區呉服町 北隆館
同市神田區表神保町 東京堂
同市本郷區本富士町 盛春堂
名古屋市本町三丁目 丸善書店

婦人衞生雜誌第二百七十九號（大正二年二月廿日發行） 明治四十三年十二月　日第三種郵便物認可（毎月一回廿日發行）